

令和5年7月9日(日)施行

第211回 全経簿記能力検定試験 2級 工業簿記 解答

第1問

1	直接労務費	2	間接経費	3	間接材料費
4	間接労務費	5	直接材料費		

第2問

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	材料	310,000	当座預金 買掛金 現金	100,000 200,000 10,000
2	仕掛品 製造間接費	520,000 30,000	貸金	550,000
3	製造間接費	70,000	材料	70,000
4	製造間接費	260,000	貸金	260,000
5	仕掛品	520,000	製造間接費	520,000
6	現金 売掛金 売上原価	720,000 720,000 1,200,000	売上 製品	1,440,000 1,200,000

第3問

直接材料費

月初仕掛品	？ 個	¥ 74,200	当月完成品	3,800 個	(¥ 1,139,200)
当月投入	？ 個	¥ 1,125,000	月末仕掛品	？ 個	(¥ 60,000)

加工費

月初仕掛品	？ 個	¥ 87,390	当月完成品	3,800 個	(¥ 2,204,390)
当月投入	？ 個	¥ 2,175,000	月末仕掛品	？ 個	(¥ 58,000)

第4問

①	イ	②	ア	③	オ	④	エ	⑤	ウ
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

第5問

原価計算表

(単位：円)

指図書 摘要	#15	#16	#17	合計
月初仕掛品原価	(298,500)	—	—	(298,500)
直接材料費	(49,800)	(120,000)	(149,400)	(319,200)
直接労務費	(69,000)	(172,500)	(92,000)	333,500
製造間接費	(105,000)	(262,500)	(140,000)	507,500
合計	(522,300)	(555,000)	(381,400)	(1,458,700)
備考	完 成	完 成	仕 掛 中	

令和5年7月9日（日）施行

第211回 全経簿記能力検定試験 2級 工業簿記 解説

第1問

- 縫製工場で工員の縫製作業に対する賃金消費額は、製品の製造に直接携わる工員の賃金となるため、直接労務費となる。
- 縫製工場で洋服を縫製する機械の保険料は、製品の製造に直接かかる経費ではないため、間接経費となる。
- 縫製工場で工場内のカーテンを補修する目的で消費した生地のコストは、製品の製造に直接かかる材料費ではないため、間接材料費となる。
- 縫製工場で工員の縫製作業を監督する工場長の給料は、製品の製造に直接携わる賃金ではないため、間接労務費となる。
- 縫製工場で洋服を縫製するために倉庫から出庫された生地のコストは、直接、製造にかかる材料費となるため、直接材料費となる。

第2問

- 素材¥300,000を購入した場合、材料勘定を用いて処理をする。ただし、購入に要した手数料がある場合、付随費用となるため購入原価に含める。

$$\begin{aligned} \text{素材の購入原価} &= \text{素材の購入代価} + \text{付随費用} \\ &= ¥300,000 + ¥10,000 \\ &= ¥310,000 \end{aligned}$$

代金のうち¥100,000は当座振出しの小切手で支払ったため当座預金勘定を用い、残額¥200,000は翌月中に支払うこととしたので買掛金勘定を用いて処理をする。

また、購入に要した手数料¥10,000は現金で支払ったので現金勘定を用いて処理をする。

- 当月に直接工が加工作業に従事した時間500時間と機械の段取り作業に従事した時間20時間は直接労務費となり、賃金勘定から仕掛品勘定へ振替える処理をする。また、作業場の清掃作業に従事した時間30時間は間接労務費となるため、賃金勘定から製造間接費勘定へ振替える。

$$\begin{aligned} \text{直接労務費} &= (\text{加工作業に従事した時間} + \text{機械の段取り作業に従事した時間}) \times \text{実際消費賃率} \\ &= (500 \text{ 時間} + 20 \text{ 時間}) \times @ ¥1,000 \\ &= ¥520,000 \rightarrow \text{仕掛品勘定へ} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{間接労務費} &= \text{作業場の清掃作業に従事した時間} \times \text{実際消費賃率} \\ &= 30 \text{ 時間} \times @ ¥1,000 \\ &= ¥30,000 \rightarrow \text{製造間接費勘定へ} \end{aligned}$$

- 当月に消費された製造用機械の燃料費は、直接製品を製造するために消費した材料ではないため、間接材料費となる。よって、材料勘定から製造間接費勘定へ振替える。

- 間接工の賃金消費額は間接労務費となる。よって、賃金勘定から製造間接費勘定へ振替える。

賃金（間接工）

当月賃金支払額 ¥250,000	前月末払額 ¥20,000
	当月消費額
当月未払額 ¥30,000	

$$\begin{aligned} \text{当月消費額} &= \text{当月貸金支払額} + \text{当月未払額} - \text{前月末払額} \\ &= \text{¥}250,000 + \text{¥}30,000 - \text{¥}20,000 \\ &= \text{¥}260,000 \rightarrow \text{製造間接費勘定へ} \end{aligned}$$

5. 当月に発生した製造間接費 ¥520,000 を製品へ配賦した場合は、製造間接費勘定から仕掛品勘定へ振替える。
6. 製造原価の 20%増しで顧客に引き渡す場合、販売価格の計算は次の通りである。

$$\begin{aligned} \text{販売価格 (代金)} &= \text{製造原価} \times 120\% \\ &= \text{¥}1,200,000 \times 120\% \\ &= \text{¥}1,440,000 \end{aligned}$$

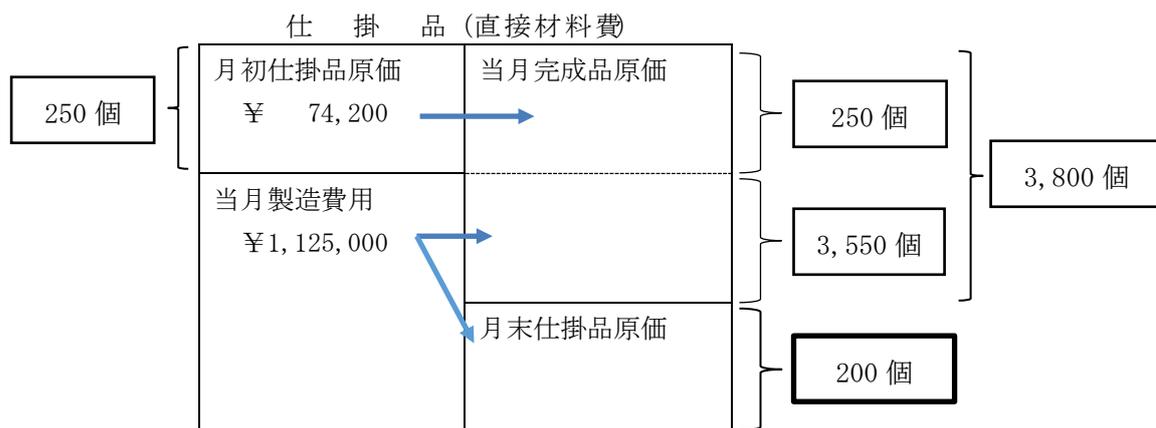
代金 ¥1,440,000 のうち半分は得意先振出しの小切手で受け取ったので現金勘定を用いて処理をし、残額は翌月末に受け取ることとしたので売掛金勘定を用いて処理をする。

また、顧客に引き渡した製品の製造原価 ¥1,200,000 は、同時に売上原価を計上したとあるので、製品勘定から売上原価勘定へ振替える。

第3問

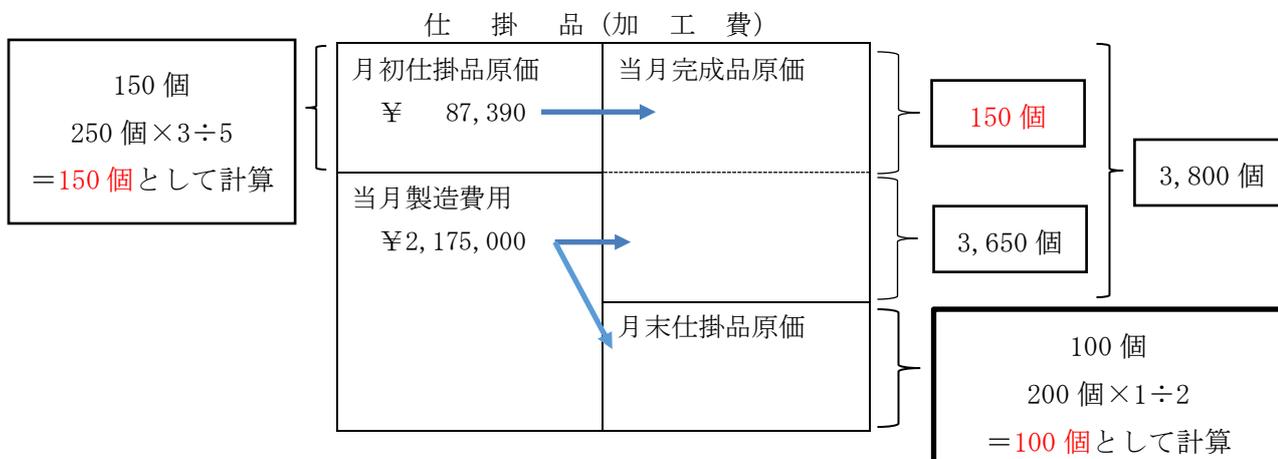
月末仕掛品原価と完成品原価を求める。

材料はすべて工程の始点で投入 月末仕掛品の評価は先入先出法によって計算



$$\text{月末仕掛品原価} : \text{¥}1,125,000 \div (3,550 \text{ 個} + 200 \text{ 個}) \times 200 \text{ 個} = \text{¥}60,000$$

$$\text{当月完成品原価} : \text{¥}74,200 + \text{¥}1,125,000 \div (3,550 \text{ 個} + 200 \text{ 個}) \times 3,550 \text{ 個} = \text{¥}1,139,200$$



$$\text{月末仕掛品原価} : \text{¥}2,175,000 \div (3,650 \text{ 個} + 100 \text{ 個}) \times 100 \text{ 個} = \text{¥}58,000$$

$$\text{当月完成品原価} : \text{¥}87,390 + \text{¥}2,175,000 \div (3,650 \text{ 個} + 100 \text{ 個}) \times 3,650 \text{ 個} = \text{¥}2,204,390$$

第4問

- ア. 当月の直接賃金消費額
→ 賃金勘定から仕掛品勘定への振替えをあらわす。
- イ. 当月の工場消耗品消費額
→ 材料勘定から製造間接費勘定への振替えをあらわす。
- ウ. 当月の販売製品に対する原価
→ 製品勘定から売上原価勘定への振替えをあらわす。
- エ. 当月の製品完成高
→ 仕掛品勘定から製品勘定への振替えをあらわす。
- オ. 当月の製造間接費実際配賦額
→ 製造間接費勘定から仕掛品勘定への振替えをあらわす。

- ① 材料勘定から製造間接費勘定への振替えをあらわしている。
これは、材料の消費額のうち間接材料費を意味している。よって、当月の工場消耗品消費額をあらわしていることになるため、 **イ** となる。

(借) 製造間接費	(貸) 材 料
-----------	---------

- ② 賃金勘定から仕掛品勘定への振替えをあらわしている。
これは、賃金の消費額のうち直接労務費を意味している。よって、当月の直接賃金消費額をあらわしていることになるため、 **ア** となる。

(借) 仕 掛 品	(貸) 賃 金
-----------	---------

- ③ 製造間接費勘定から仕掛品勘定への振替えをあらわしている。
よって、当月の製造間接費実際配賦額をあらわしていることになるため、 **オ** となる。

(借) 仕 掛 品	(貸) 製造間接費
-----------	-----------

- ④ 仕掛品勘定から製品勘定への振替えをあらわしている。
これは、当月に完成した製品の原価の振替えを意味している。よって、当月の製品完成高をあらわしていることになるため、 **エ** となる。

(借) 製 品	(貸) 仕 掛 品
---------	-----------

- ⑤ 製品勘定から売上原価勘定への振替えをあらわしている。
これは、製品の販売時に、製品の原価を売上原価勘定に振替えたことを意味している。よって、当月の販売製品に対する原価をあらわしていることになるため、 **ウ** となる。

(借) 売 上 原 価	(貸) 製 品
-------------	---------

第5問

材料元帳

(移動平均法)

N材料

(単位：円)

日付	摘要	受入			払出			残高		
		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
2	1 前月繰越	(120)	(1,200)	144,000				(120)	(1,200)	144,000
	2 出庫(#16)				100	(1,200)	(120,000)	(20)	(1,200)	(24,000)
	8 仕入	180	(1,250)	225,000				(200)	(1,245)	(249,000)
	10 出庫(#15)				40	(1,245)	(49,800)	(160)	(1,245)	(199,200)
	14 出庫(#17)				(120)	(1,245)	(149,400)	40	(1,245)	(49,800)
	28 次月繰越				40	(1,245)	(49,800)			
		(300)		(369,000)	(300)		(369,000)			

製造指図書#15

<前月より製造着手 当月完成>

月初仕掛品原価	【問題文2】 当月の月初有 仕掛品(#15) : ¥298,500
直接材料費	【問題文4】 材料元帳作成より 2/10に出庫した金額 ¥49,800
直接労務費	【原価計算表】 直接労務費合計、【問題文5】 当月の直接作業時間の内訳より $¥333,500 \div (60 \text{ 時間} + 150 \text{ 時間} + 80 \text{ 時間}) \times 60 \text{ 時間} = ¥69,000$
製造間接費	【原価計算表】 製造間接費合計、【問題文6】 直接作業時間を基準として各製造指図書へ配賦とあるので、【問題文5】 当月の直接作業時間より $¥507,500 \div (60 \text{ 時間} + 150 \text{ 時間} + 80 \text{ 時間}) \times 60 \text{ 時間} = ¥105,000$
合計	¥298,500 + ¥49,800 + ¥69,000 + ¥105,000 = ¥522,300

製造指図書#16

<当月より製造着手 当月完成>

直接材料費	【問題文4】 材料元帳作成より 2/2に出庫した金額 ¥120,000
直接労務費	【原価計算表】 直接労務費合計、【問題文5】 当月の直接作業時間の内訳より $¥333,500 \div (60 \text{ 時間} + 150 \text{ 時間} + 80 \text{ 時間}) \times 150 \text{ 時間} = ¥172,500$
製造間接費	【原価計算表】 製造間接費合計、【問題文6】 直接作業時間を基準として各製造指図書へ配賦とあるので、【問題文5】 当月の直接作業時間より $¥507,500 \div (60 \text{ 時間} + 150 \text{ 時間} + 80 \text{ 時間}) \times 150 \text{ 時間} = ¥262,500$
合計	¥120,000 + ¥172,500 + ¥262,500 = ¥555,000

製造指図書#17

<当月より製造着手 当月仕掛中>

直接材料費	【問題文4】 材料元帳作成より 2/14に出庫した金額 ¥149,400
直接労務費	【原価計算表】 直接労務費合計、【問題文5】 当月の直接作業時間の内訳より $¥333,500 \div (60 \text{ 時間} + 150 \text{ 時間} + 80 \text{ 時間}) \times 80 \text{ 時間} = ¥92,000$
製造間接費	【原価計算表】 製造間接費合計、【問題文6】 直接作業時間を基準として各製造指図書へ配賦とあるので、【問題文5】 当月の直接作業時間より $¥507,500 \div (60 \text{ 時間} + 150 \text{ 時間} + 80 \text{ 時間}) \times 80 \text{ 時間} = ¥140,000$
合計	¥149,400 + ¥92,000 + 140,000 = ¥381,400